

報 告 書

令和5年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価（令和4年度対象）

【点検及び評価の趣旨・根拠等】

○趣旨

「上毛町の教育施策」に掲げる教育の基本目標の具現化と、町民の立場に立った効果的な教育行政の推進に資するとともに、教育行政の推進状況に関する町民への説明責任を果たす。

○根拠

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条（平成20年4月施行）

- ①教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う。
- ②その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表する。
- ③評価、点検を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用する。（第三者評価）

【点検及び評価の対象・方法・着眼点】

○対象

「教育委員会の活動状況」及び「教育施策の推進状況」の点検及び評価については、前年度の「上毛町教育大綱」に掲げている主要施策を対象とする。

○方法

教育施策に掲げている主要施策及び教育委員会の活動について自己評価を行う。自己評価されたものについて、外部有識者による点検及び評価を行う。

上毛町教育委員会

令和4年度上毛町教育施策の取組状況点検及び評価

【教育委員会の活動状況点検及び評価】

教育委員会 評価
A：十分達成 B：相当程度達成 C：やや不十分 D：不十分

【教育委員会評価】

○教育委員会開催実績	A
○教育委員会会議	A
○教育委員会会議以外の活動	A
○教育委員会活動の情報発信	B

第三者評価（教育委員会の活動状況評価）

教育委員会の開催については、定例会 11 回、臨時会 2 回と定期的に実施されている。

内容においても、上毛町の主要施策や予算案、諸条例の改正など適切に行われていると評価できる。また、臨時会において教職員の不祥事案について協議されている。こうした事案は正に不測の事態であるが、迅速且つ適切に対応策を検討することが求められる。生徒指導上の問題も突発的な事態が発生する可能性もある。このような場合、適宜臨時会等の開催を以て対応することが必要であろう。

教育委員会会議以外の活動では、定例の学校訪問を実施していることが重要であると考え。学校の教育活動、教育環境の視察や管理職を中心とした学校教職員との意見交換は、各学校の現状や課題を把握する上で特に重要である。また、学校訪問時だけにとどめるのではなく、教育委員会会議の場においても学校の状況を適宜取り上げ、情報交換を行うことは、学校現場に根ざした教育活動の支援につながると考える。

総合教育会議は 2 回開催されているが、町の方針と教育委員会の方針、予算等をすりあわせる重要な会議である。今後も実現可能な積極的な論議を望むところである。

教育委員会会議については、原則公開であるが、個人情報保護や児童・生徒・保護者等に対する教育的配慮の観点から、公開する内容を精査する必要があると考える。本年度は、研究発表会が複数開催され成果をあげている。このような教育の成果等を現在も町の広報誌等の誌面で掲載しているが、今後も広く町民に提供する必要がある。

【教育施策の取組状況点検及び評価】

学校教育関係の点検及び評価

- ・ 5つの柱のうちA・B・C・Dは学校教育に主たる責務がある。そこで、評価については、各学校が取り組み状況を自己評価する。
- ・ 評価の数値は、5つの学校（友枝小・唐原小・西吉富小・南吉富小・上毛中）の平均値と教育委員会評価である。
- ・ 第3者評価はコメントを に記載する。

社会教育関係・文化財の点検及び評価

- ・ 5つの柱のうちD・Eは社会教育・文化財に主たる責務がある。そこで、評価については、生涯学習・社会教育（スポーツを含む）事務事業及び文化財関係を教育委員会教務課職員による平均値と教育委員会評価である。
- ・ 第3者評価はコメントを に記載する。

各学校・担当者 評点		
5	十分達成	(80%以上)
4	相当程度達成	(60%以上～80%未満)
3	やや不十分	(40%以上～60%未満)
2	不十分	(20%以上～40%未満)
1	抜本的見直しが必要	(0%以上～20%未満)

教育委員会 評価			
A	十分達成	B	相当程度達成
C	やや不十分	D	不十分

A 個性や能力に富み学力や体力を備えた子どもの育成

1 子どもの学力向上や個性・能力の伸長

【自己評価】 【教委評価】

(1) 確かな学力の育成を図る事業の充実

○学力向上プランによる学力向上の推進	4. 2	A
○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進	4. 0	
○各種調査による学力検証の推進	4. 2	

(2) 社会の変化に対応した教育の推進

○ICTを活用した学習・指導方法の推進	4. 0	B
○児童生徒の勤労観・職業観を育てる教育の推進	3. 8	

(3) 外国語活動及び外国語科教育の充実

○小学校の英語教育に係る指導体制の整備	4. 8	B
○中学校生徒の英語力の向上を図る取組（英検塾等）の推進	3. 0	

(4) 学校、家庭、地域が連携した生活、学習習慣形成の推進

○上毛中学校区スタンダードによる取組の推進	3. 8	B
-----------------------	------	---

(5) 自立や社会参加に向けた特別支援教育の改善・充実

○一人ひとりの子どものニーズに対応した授業改善	3. 8	A
○個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成	4. 4	
○教職員の専門性向上と校内支援体制の整備、専門家の活用	4. 4	

(6) 教職員の指導力の向上

○個人または教育研究団体等での自主的研修の取組	4. 0	A
○組織的に行う校内研修の取組	4. 6	
○県教育委員会が企画実施する計画研修への積極的な参加	4. 2	

(7) 快適な教育環境をめざす施設・設備の整備

○冷暖房等教室環境の充実に向けた取組の充実	4. 6	A
○風水害及び地震等の自然災害に対応した施設・設備の充実	4. 0	

2 子どもの体力の向上や健やかな体の育成

【自己評価】 【教委評価】

(1) 体力向上のための取組の推進

○体育科・保健体育科授業の充実	4. 4	A
○1校1取組を通じた運動習慣の定着	4. 4	

(2) 体育・スポーツ活動を豊かにする体制づくり

○体力向上プランによる組織的な体力向上の取組	4. 2	A
------------------------	------	---

第三者評価（個性や能力に富み学力や体力を備えた子どもの育成）

「子どもの学力向上や個性・能力の伸長」に係る取組については、学力向上プランを基にした学力向上の取組が確実になされている。また、児童・生徒の実態と照らして年2回の見直しを行っている。このことは、学力向上プランを実効性のあるものにしようとする取組であり大いに評価できる。その中で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が重要な要素となる。授業改善については各学校で様々な取組がなされているが、実効性のある優れたものについては学校内や学校相互で見合ったり、実践交流をしたりするような場の設定が望まれる。幸い本年度は、研究発表会が実施され、またとない実践交流の場となったと考える。

社会の変化に対応した教育の推進では、ICTを活用した学習・指導方法の推進に努めたことは大いに評価できる。今後も、こうした教育が推進できる環境の整備が望まれる。

勤労観・職業観の育成については、キャリアパスポートを活用し、児童・生徒が自己の成長を実感できるようになった点が評価できる。

外国語活動及び外国語科教育の充実では、小学校英語教育に係る指導体制を整えたことは大いに評価できる。今後、人員配置にとどまらず、指導の量と質の目標設定をし、適切に評価していくことが必要であろう。中学校においても、本町ALTを活用し、英検の合格者数を増やすなど、さらに英語によるコミュニケーション力の向上を期待する。

学校、家庭、地域が連携した生活、学習習慣形成の推進については、上毛中学校区スタンダードを作成し、推進していることは意義あることであると考えられる。目標の設定、情報の共有にとどまらず、さらに具体的な行動連携へとつながることを望む。特に、家庭学習の習慣化については、学校だけでなく、家庭・地域がそれぞれの役割を自覚していく取組が必要であると考えられる。

自立や社会参加に向けた特別支援教育の改善・充実については、個別の支援計画や指導計画の作成、教職員の専門性向上の取組は充実していると考えられる。今後も、築城特別支援学校や京築教育事務所などの外部機関と連携し、子どものニーズに応じた授業改善の充実を期待する。

教職員の指導力の向上については、県教育委員会が企画実施する計画研修への積極的な参加や組織的に行う校内研修の取組が充実していることがうかがえる。また、県重点課題研究指定・委嘱校等の研究については教育委員会・学校が総力を挙げ積極的に取り組み、着実に成果を上げている。こうした成果を、町としての教育財産として蓄積し今後に生かしていくことを期待する。

快適な教育環境をめざす施設・設備の整備については、財政との関わりも深いので、総合教育会議等を通して首長部局と連携協力しながら引き続き整備の充実を願うところである。

「子どもの体力の向上や健やかな体の育成」では、体力向上プランを作成し、年間を通して1校1取組を計画的に実施していることは評価できる。全国的には子どもの体力の2極化が指摘されている。望ましい運動習慣を身に付ける取組の継続を望む。今後、特に中学校において運動部活動のあり方が課題となるので教育委員会と学校との熟議が必要となろう。

B 豊かな心を持ち、国際感覚を備えた子どもの育成

1 豊かな心を持った子どもの育成

【自己評価】【教委評価】

(1) 豊かな心を育む教育の充実

○道徳的行為に関する体験的・問題解決的な学習の導入や考え・議論する学習指導の推進	3. 8	B
--	------	---

(2) いじめ・不登校、問題行動等の解決に向けた相談・指導体制の充実

○生徒指導の機能を生かした教育活動の推進	4. 2	A
○いじめや不登校等の早期発見・早期対応の組織的な対応、いじめの積極的な認知の推進	4. 6	
○専門家・関係機関と連携した「チーム学校」としての取組	4. 4	

(3) 読書活動の充実

○全校一斉の読書活動や読書目標の設定等による読書習慣の形成や読書の機会の確保	3. 8	B
○学校図書室の整備・充実	4. 0	
○ブックスタートや家読（うちどく）など家庭での読書活動への支援	3. 2	
○読書ボランティアや保育所（園）及び学校との連携・協力	4. 2	

(4) 体験活動の充実

○地域の人材活用による体験活動の充実	4. 6	A
○こうげっこ通学合宿事業の充実	※中止	

(5) 一人ひとりの人権を尊重する教育の推進

○自己存在感を持たせる授業づくりの推進	4. 0	A
○人権が尊重される人間関係及び環境づくり	4. 0	

(6) 健康教育・食育の充実

○健康で安全な生活を実践しようとする取組の推進	4. 4	A
○望ましい食生活を身に付ける取組の推進	4. 6	

2 国際感覚あふれる子どもの育成

【自己評価】【教委評価】

(1) 伝統と文化を尊重し、グローバル社会に対応する教育の推進

○地域の伝統・文化について理解を深める取組の推進	4. 2	A
○豊かなコミュニケーション能力を身に付ける取組の推進	4. 0	

(2) 上毛町少年海外体験学習事業（バンコク友好の翼）の充実

○バンコク友好の翼事業の充実	※一部実施	4. 5	A
----------------	-------	------	---

(3) コミュニケーション能力の育成を目指した「国内留学体験学習事業」並びに「英検塾」の実施

○国内留学体験学習事業の充実	※中止		—
○英検塾の充実		4. 0	B

3 ふるさと「上毛」を愛する青少年の育成

【自己評価】【教委評価】

(1) 地域ぐるみによる青少年健全育成の推進

○あいさつ運動や安全見守り隊等地域と一体なった取組の推進	4. 2	A
------------------------------	------	---

(2) 関係機関・団体との連携強化

○上毛町PTA連絡協議会や上毛町子ども会育成連絡協議会及び上毛町青少年健全育成町民会議との連携	4. 2	A
---	------	---

第三者評価（豊かな心を持ち、国際感覚を備えた子どもの育成）

豊かな心を持った子どもの育成の中で、豊かな心を育む教育の充実では、道徳科を学校における道徳教育の要として推進していくことが必要である。道徳教育推進教員が中心となり、重点目標を設定し年間指導計画を立案できたことは評価できる。その計画を実施する中で、体験的・問題解決的な学習の導入や考え・議論する学習指導の推進ができていくかを不断に検証していくことが望まれる。また、

縦割り集団での様々な活動を重視したことは、規範意識や思いやりの心の育成の観点から評価できる。今後、学校の状況を見極め、さらに充実した道徳教育を推進することを期待する。

いじめ・不登校、問題行動等の解決に向けた相談・指導体制の充実では、アンケートや面談などを通したきめ細やかな対応は評価できる。ただ、いじめの認知件数や不登校の増加は気になるところである。組織的な対応や専門家等と連携した「チーム学校」としての取り組みを継続しつつ、未然防止という観点から、生徒指導の機能を生かした教育活動の推進に一層期待するところである。

読書活動の充実については、いかにデジタル化が進もうと、読書活動が子どもの豊かな人間性を育むことについては異論の無いところであろう。家庭での読書に課題があるようであるが、学校での朝読書の充実や読書ボランティアの活用など、本との出会いの場や読書の楽しさを味わう場の充実が望まれる。

体験活動の充実については、小中学校ともに地域の人材を活用して充実した活動が展開されていると大いに評価できる。地域の人材や文化に触れるということは、単に知識や技術を学ぶにとどまらず、人の温かさや息づかいを感じ、子どもが自らの生き方を考えることに通じる。実感の伴わない情報に囲まれている子どもにとって、体験活動は大変重要な意味を持っている。今後も地域の人・もの・ことを活用した体験活動の一層の充実を期待する。

一人ひとりの人権を尊重する教育の推進については、自己存在感を持たせる授業づくりを推進している点が評価できる。そうした授業づくりをするためには、学校・学級の支持的風土が必要である。一人ひとりが認められ大切にされる中で相手を尊重する心や態度が育っていく。日々の何気ない会話や行動、そして、それを生み出す感性を磨き続けてほしいと願うところである。

健康教育・食育の充実では、望ましい食生活を身に付ける取り組みが推進されている。特に、福岡県重点課題研究指定・委嘱地域（校）の優れた取組を発表し、各学校に広げることができたことは大いに評価できる。

「国際感覚あふれる子どもの育成」において、上毛町少年海外体験学習事業（バンコク友好の翼）は上毛町が特に力を入れる重要な事業であると考え。コロナ禍で対面での交流が制限される中、オンラインで両国の教室をつなぎ交流を継続した取組は素晴らしいものであると考える。子どもの国際感覚を磨く上で今後も継続することを期待する。また、その成果を広報誌等を通じて積極的に発信してほしいと願うところである。

「ふるさと「上毛」を愛する青少年の育成」では、教育委員会・学校が関係機関・団体との連携を一層深め、目標を共有しながらともに行動していくことを期待する。

C 地域とともにある、信頼される学校づくり

1 地域とともにある学校づくり

【自己評価】【教委評価】

(1) コミュニティ・スクールの推進・充実

○学校運営協議会制度による地域とともにある学校づくりの推進	4. 6	A
-------------------------------	------	---

(2) 信頼される教職員の育成

○不祥事防止対策検討委員会を中心とした取組の推進	4. 6	B
--------------------------	------	---

(3) 児童・生徒の安心・安全の確保

○子どもの見守り活動の充実	4. 6	A
○校区安全対策協議会の取組の充実	4. 4	

(4) 学校施設の開放並びに整備・充実

○学校施設を活用した様々な学習機会の提供	4. 2	A
○地域と連携した学校施設の整備	4. 0	

(5) 教育的ニーズに対応する学校づくり

○一人ひとりの教育的ニーズに対応した特別支援教育の推進	4. 4	A
-----------------------------	------	---

第三者評価（地域とともにある、信頼される学校づくり）

コミュニティ・スクールの推進・充実については、学校と地域の連携・協働体制ができつつあるといえよう。そのような中、上毛町コミュニティ・スクール研修会を実施し、実践の交流に努めたことは意義があると考えます。今後、他の市町村の特色ある取組などについて研修する場を持つことも一考に値すると思えます。また、多くの地域住民に制度の意義について周知を図るとともに成果を広報する努力が必要であろう。

信頼される教職員の育成については、不祥事防止の取組を徹底するとともに風通しのよい職場づくりに努めることが大切である。今回町内教職員の不祥事案が発生したが、どの教職員も心に弱い側面を持つという認識に立ち、教職員が悩みやストレスを一人で抱え込まないよう学校に対する支援を継続することが必要であると思えます。

児童・生徒の安心・安全の確保については、登下校時の見守り活動が定着してきている。児童・生徒に関わる事故が登校時よりも下校時に多いことに鑑み、校区安全対策協議会等において、下校時の安全対策についてさらに協議を深めることも大切であると思えます。

学校施設の開放並びに整備・充実については、生涯スポーツに親しむことができる場の提供という観点から今後も積極的な整備と開放を期待する。

教育的ニーズに対応する学校づくりでは、町特別支援教育支援員の配置が充実してきていると評価できる。量的確保とともに支援の質の向上に向けて各学校での情報共有や支援体制を充実させるよう継続的な支援が求められる。

D 生涯学習・スポーツの推進と伝統・文化の振興

1 生涯学習推進体制の充実

【自己評価】 【教委評価】

(1) 生涯学習推進計画等指針の策定

○社会の変化に対応し地域住民のニーズに対応するための生涯学習推進計画の策定	3. 0	B
---------------------------------------	------	---

(2) 生涯学習活動等学びの場の充実・支援

○地域課題及び住民ニーズに応じた講座の開設	4. 3	A
○上毛町文化協会との連携	3. 0	

(3) 人材の育成と活用

○生涯学習講座の充実	3. 7	B
○生涯学習サポーターの育成	3. 0	

(4) 社会教育施設の充実と学校施設等の有効活用

○地域住民の学習ニーズに対応した各種施設の設備充実	3. 3	A
---------------------------	------	---

2 スポーツの振興

【自己評価】 【教委評価】

(1) スポーツの普及と発展による地域間交流の促進

○スポーツ推進委員の育成	4. 0	A
○スポーツボランティアの活用	3. 0	

(2) スポーツ通じた健康づくり、地域づくりの推進

○地域課題及び住民ニーズに応じたスポーツイベントの開催	3. 0	A
○上毛町体育協会との連携	4. 3	

(3) 快適なスポーツ環境の整備・充実

○スポーツ施設の充実	4. 0	A
○スポーツ施設の管理運営	4. 0	

3 伝統・文化の振興

(1) 文化財の保存・活用と地域伝統文化の継承

【自己評価】【教委評価】

○埋蔵文化財の発掘調査の推進	5. 0	A
○文化財の収蔵遺物公開・貸出の推進	4. 0	

(2) 文化芸術活動の振興

○子ども劇場の充実	※中止	—	—
○文化講演会の充実	※中止	—	

第三者評価（生涯学習・スポーツの推進と伝統・文化の振興）

「生涯学習推進体制の充実」において生涯学習推進計画等指針の策定では、関係者と連携し、地域住民のニーズに対応する指針を策定することを期待する。

生涯学習活動等学びの場の充実・支援においては、コロナ禍も解消しつつある状況を踏まえ地域の課題や住民のニーズを把握し、それに対応した講座の開設が大切である。そのような中、生涯学習講座の開設ができたことは評価できる。魅力ある講座を開設し、多くの地域住民が学ぶことができる機会を増やすことを期待する。

「スポーツの振興」については、コロナ禍で実施できなかったスポーツ大会を3年ぶりに開催することができたことは大変喜ばしいことである。また、町広報誌やホームページを通して、コロナ禍においても自宅でできる運動の紹介を行うなどスポーツを通じた健康づくりにを推進しようとする姿勢がうかがえる。今後も関係団体・機関と連携を図りながら積極的に推進していくことを期待する。さらに、新町立体育館「ループアリーナ」の完成が待たれるところであるが、単なるスポーツ施設としてだけでなく、地域コミュニティ醸成の場として総合的な活用計画の策定を期待するところである。

「伝統・文化の振興」では、文化財の保存・活用については計画的に実施されていて評価できる。また、コロナ禍で子ども劇場や文化公演会は中止となったが、小学生が地域の伝統文化を継承し、お田植祭で発表したことは大変喜ばしいことである。今後も地域の伝統・文化の保存・活用及び振興に尽力していただきたい。

E 人権が尊重される心豊かな社会の創造

1 人権施策の推進

(1) 人権教育・啓発、相談体制の充実

【自己評価】【教委評価】

○学校における人権教育推進計画に基づく指導の充実	4. 4	A
○上毛町人権教育研究協議会と連携した人権啓発活動の推進	4. 2	

第三者評価（人権が尊重される心豊かな社会の創造）

人間としての尊厳が大切にされ、全ての人々の人権が尊重される社会を築いていくことはみんなの願いであり、責務である。

学校における人権教育では、学校の教育活動全体を通じた意図的・計画的な人権教育の推進が求められる。その際、人権に関わる普遍的な視点とともに、インターネットによるいじめや性同一性障がい等々多様化した個別的な視点からのアプローチを大切にすることが必要である。新型コロナウイルス感染症が収束しつつある今、マスクの着脱に関わる対応などの課題が想定されるが、適切に対応できるよう学校への指導を願うところである。

社会教育における人権教育も学校教育と同様、現代の多様化した人権課題に対応する講座の開設等を期待する。また、現在、町カレンダーに児童・生徒の作成した人権ポスターが掲載され全家庭に配付されているが、このような具体的取組は人権問題を身近なもの・自分に関わるものとして意識する有効な方法であると考え。関係部局等と連携し、こうした取組が一層充実することを期待する。

総評（第三者評価者 皆尺寺 敏紀）

元 吉富町教育委員会 教育長

元 京築教育事務所 所長

元 小学校 校長

上毛町教育委員会では、「行きたい学校、帰りたい家庭、出かけた地域づくり」を合い言葉に、町の将来像である「みんなが輝くまち上毛」の実現に向け、学校教育、社会教育に計画的に取り組んでいる。

コロナウィルス感染症が収束しつつある現在、コロナ禍以前の当たり前の日常が戻りつつあることは大変喜ばしいことである。そのような中、学校教育・社会教育の分野において、できる限りの対策を取り諸事業を推進したことは大いに評価できる。

教育委員会の会議の運営については、計画的に行われている。また、不祥事案の発生等に伴い臨時会を開催し対応を検討するなど適宜適切に運営されている。教育委員会と首長との連携については、事業方針や主要施策、予算案等の重要案件について総合教育会議で協議する場を持っている。首長部局とは総合教育会議にとどまらず、日常的に意見交換・情報交換をすることが施策の具現化につながると考える。学校その他教育施設に対する支援については、定例の学校訪問により教育委員会と学校が教育内容や方法、施設・設備等について情報や意見交換を行い緊密な連携をとっている。このことは、学校の教育活動や教育環境、人材育成などを支援することにつながり意義深いと考える。

教育施策の取組について学校教育では、学力向上に向けて各学校が学力向上プランを基に積極的に推進している。児童・生徒の実態を把握し、課題解決のための日々の取組や授業の行い方等が焦点化できるよう、指導の継続を望む。また、指導のあり方について常に点検・評価し改善が図られるよう、PDCA サイクルを確立することが必要である。その中で、実効性のある取組については町全体・学校全体で共有できるような場の設定を期待する。若年教員が増える中、ベテランの技術やノウハウを授業という具体的な場で若手に指導することが有効であり人材育成につながると考える。

また、学校、家庭、地域が連携した生活、学習習慣形成をするために「上毛中学校区スタンダード」の作成・活用について継続的に指導していることは意義深い。上毛町の学校は、1中、4小で構成されているが、その長所を生かした取組といえるであろう。コロナウィルス感染症が収束しつつある状況の中で、小中学校がそれぞれの取組を見合ったり交換授業をしたりするような場の設定が大切であると考える。また、家庭学習やスマホの使い方など家庭や地域に比重の大きいことについては、それぞれの役割を強く自覚し学校・家庭・地域が一体となって取り組む仕組み作りが必要であろう。

社会教育については、コロナ禍で実施できなかった生涯学習講座や文化・芸術活動が復活しつつある。また、地域の伝統芸能を子どもたちが受け継ぎ発表する場も持っていることは、大変喜ばしいことである。今後も地域住民や子どもたちのニーズを把握し、有意義な活動が展開できることを期待する。また、新体育館「ループアリーナ」の完成に伴い、地域スポーツ・文化の核として幅広い活用計画の策定を期待する。

今後、上毛町の教育がさらに充実・発展するよう教育施策の目標設定については、各学校とできる限り整合させるよう努めるとともに、より具体的に設定することを期待する。また、刻々と変化していく社会状況や教育活動に応じて、目標そのものを年次を追って深化させていく必要があると考える。このことによって、より客観的で適切な評価が可能となり、今後につながる具体的な教育施策の策定が期待できると考える。

これまで真摯に積み重ねてきた諸々の教育施策がさらに充実・発展することを願うところである。